

多摩信用金庫 職種 事務職

私は、多摩信用金庫（以下、多摩信）から事務職の内定をいただきました。多摩信は、多摩地域に根差しており、地域のお客様や企業への預金や貸し出しといった仕事を通して地域全体を発展させることを目的としています。今日は、後輩の皆さんに向けて、私が進路を決定するにあたって頑張ったことや苦労したことをお伝えします。

私は、1年生の時から卒業後は就職しようと決めていましたが、沢山ある求人の中から自分がどの企業に行きたいのか曖昧でとても悩みました。そんな中、私がこの企業を受けようと思ったのは、先生に勧めていただいたからです。悩んだときは何度も先生と相談することで、自分がどんな仕事がしたくて、どのように働きたいかがはっきりしていきました。そして、企業のことをホームページで調べ、働き方や方針に魅力を感じ、多摩信で働きたいと思うようになりました。

試験は、面接と適性検査を行いました。試験対策として、まず進路指導室にある「入社試験報告書」を見ました。過去に受験した先輩たちの、面接で聞かれたことや適性検査の内容、後輩へのアドバイスなどが詳しく書いてあり、それを参考にして勉強を進めました。

試験に向け最も力を入れたのが、面接練習です。私は面接が苦手で、緊張して自分の言いたいことを上手く伝えられなくなってしまいます。そのため、話をまとめ、分かりやすく答えることを意識して練習を重ねました。相手にしっかり伝えられるよう、沢山の質問と自分が何を伝えたいのか考え、ノートにまとめていきました。特に、志望動機や自己PRは自信をもって答えるために、企業についてよく調べたり自己分析を細かく行ったりしました。企業のことは、調べるだけでなく、個人的に支店に行き、雰囲気やどんな仕事をしているのかを見学しました。その時預金口座を開設しましたが、職員の方が丁寧に対応してくださり、私もあんなふうに仕事がしたいと強く思いました。自分の働く姿が想像でき、モチベーションを上げるため、個人的に見学に行ける会社であれば行ってみたいです。自己分析では、自分の長所や短所、高校生活で頑張ったことや学んだことなどを書き出し、それをもとに話すことをまとめていきました。伝えたいことを意識し、話す内容を整理して練習に取り組むことにより、上手く答えられるようになりました。また、入退室の仕方や面接中の態度、はっきりと明るく答えることなどは、とても大切です。常に気をつけて練習をしました。

適性検査の内容は、電卓を使って計算をしていく問題と、表を見比べて間違いが何個あるか探す問題でした。私は検査の対策として問題集を購入し、書き込みながら繰り返し問題を解いて勉強していました。最初は制限時間が短くて全然問題を解けませんでした。何度も解くうちに形式に慣れることができました。適性検査は、何度も解くことでどんどんできるようになるため、早いうちから対策すると良いと思います。

最後に、後輩の皆さんに伝えたいことがあります。それは、成績を上げておくことの重要性です。学校から推薦する企業は、3年間の成績が上位の人から決められます。成績が低いと、行きたい企業があっても受験できず後悔することになります。自分の希望を叶えるためには、勉強面や生活面で3年間努力を続けることが大切です。また、高校時代にできるだけ多くのことを体験してみてください。それが、面接などでとても役に立っていくと思います。進路活動中は、辛いと感じることが何度もありますが、どんなことでもやればやるほど自分の力になります。不安なことや悩みがあったら先生や家族を頼り、前向きに取り組んで頑張ってください。私も、立派な社会人を目指し、日々努力を怠らせず精進していきます。

令和2年2月27日 東京都立第五商業高等学校

西多摩農業協同組合 職種 事務職

私は、西多摩農業協同組合（以下、JA西多摩）の事務職で内定をいただきました。農協の仕事は、銀行のような業務に加え、保険などに関する業務まで幅広く行っている企業です。これから本格的に進路を考えていく皆さんに向けて、JA西多摩を選んだ理由と、就職活動について、アドバイスの3点をお伝えしたいと思います。

まず、JA西多摩を選んだ理由です。私は、高校入学前から、卒業後は公務員になろうと考えていましたが、進路について真剣に考えるようになった頃、本当に自分が就きたい職業は公務員なのか、と考えるようになりました。それと同時に、農協の仕事に興味を持ち始め、公務員か農協かでとても悩んでいました。3年生の5月に行われた卒業生懇談会で、実際に農協で働いている先輩から話を聞いて、やはり私は、農協で働きたいと決心することができました。

次に就職活動についてです。本格的な就職活動が始まったのは、求人票が届く7月からでした。求人票は毎日増えていき、農協の求人もたくさんありました。その中でも、JA西多摩は私の地元にも支店があり、地域の人の役に立てるのではないかと思い選びました。試験の内容は、五教科と一般常識、面接です。その中でも特に力を入れたのが面接です。今まで試験を受けた先輩方の記録が進路指導室に残っているので、それを参考に、今まで質問されていることは全て答えられるようにしました。また、私は、緊張すると早口になってしまう癖があったので、それを改善するためには、面接の雰囲気になれることが大切だと思い、夏休みから先生やクラスメイトに協力してもらって、何度も面接の練習を行いました。その際に、自分の答えた内容について興味を持ってもらおうと、話が広がるので簡潔に、しかし短くなりすぎないようにという点と、全てを暗記しようとはしないという点を意識しました。練習の甲斐あって、試験当日は、緊張しても早口にならず、自分の伝えたい事も最初の頃よりうまく伝えられるようになりました。五教科と一般常識は、進路指導室で参考書を借りて、自宅や学校の休み時間などを活用して勉強を進めました。

最後に、アドバイスとして特に伝えたい事が2つあります。第1に、成績をできるだけ上げてください。学校から企業へ推薦する人は、成績が上位の人から順に決めていくため、自分が希望している企業でも、自分より成績が上位の人と競合してしまうと、その企業に推薦されることはありません。実際に私も第一希望が私よりも上位の人と同じだったため、悔しい思いをしました。しかし、その企業と同じくらい興味をもっていたJA西多摩に推薦されることが決まったので、本当に良かったと思っています。以上のことから、しっかり勉強し、各教科の評定を上げることがとても大切です。

第2に、クラスで協力して進路活動に臨んでください。私のクラスでは、授業の号令の際に面接を意識して、綺麗なお辞儀をするようにしていました。簡単なことですが、毎日、毎時間続けたことで自然と綺麗なお辞儀が身に付きました。また、就職者でお互いに面接練習をし合ったことで、クラス内の意識が高まり、皆で頑張ろうという気持ちになりました。これから進路活動が始まり、悩むこともあると思いますが、自分が努力した分、良い結果に繋がると思いますので頑張ってください。

国税庁 職種 税務職員

私は、税務職員採用試験に合格し東京国税局に採用が決まりました。当初は民間企業への就職を考えていましたが、人々のためになる仕事がしたいとの思いが強くなり、2年生のときに公務員を目指そうと決意しました。

私が公務員試験の受験に向けて、実際に取り組んだ対策や経験したことを二つお伝えします。

一つ目は受験対策についてです。教養試験は出題範囲がとても広く、大変です。出題傾向などの詳しい内容は予備校の無料講習会で学び、過去問題集を中心に自宅で勉強していました。私は5種類の問題集を購入して勉強していましたが、中には自分に合わないものもあり、思うように進められない時期もありました。自分に合う方法を見つけるためにも早いうちから始めてください。他にも、作文試験と適正試験の勉強もしました。比較的簡単だと感じるかもしれませんが、二つとも侮ってはいけません。しっかりと対策してください。ここまでが1次試験の内容となります。1次試験を通過すると次は2次試験です。現在の公務員試験では、人物重視の傾向があり出願書類や面接が最も重要だと言われています。実際に私が受けた面接でも、30分間も行ったり、自己PRを3分間したりしたところもありました。また、いくつも併願受験をする場合、履歴書を書くのがとても大変です。受験先によって書く内容が異なるため、全部考え、面接に活かさなければなりません。そのため、早いうちからの準備が必要です。私は2年生から目指そうと決めたため、部長や委員長、英語スピーチコンテストへの出場など、様々なことに積極的に立候補し、話せる内容を作るようにしました。ボランティアなどに参加するだけでも、履歴書に書くことや、面接の際に話せることが増えます。さらに、本番の緊張は想像を絶するほどです。その上、待ち時間が結構長いため、ずっと息苦しい状態です。服装や態度などを今のうちから直す習慣を身に付けることが大切です。よって、1次試験だけでなく、面接のことも意識して日々過ごした方がよいと思います。

二つ目は精神的な負担です。公務員試験はとても長期にわたって活動しなければなりません。そのため、周りの人は徐々に進路が決まっていく中で、自分だけ進路活動を続けている状況になります。実際に私も、12月の中旬まで活動していました。最初のうちは余裕を保てていましたが、みんなの進路が決まってくる中で、正直なところとても辛かったです。例えば、私は面接が得意でした。下調べしていたこと、何より人と話すことが大好きなので、面接練習では何の苦労もなくこなすことができました。そして、同じ就職組の進路が決まってきた頃、私は本番前面接練習に挑んでいました。本番への緊張や、自分の進路が決まっていないことの焦りからか、私は全く答えることができませんでした。先生にも「面接下手になったな」と言われていました。私はそのときが一番辛く、泣きたくなるほどでした。このようなときに、私は友達に相談をしたり、大人の方からアドバイスをいただいたりと、周りを頼りました。そうすることで、気持ちは楽になっていきました。このようなことから、みんなで支えあっていくことも大切だということを知ってください。

残りの高校生活を楽しむためにも、努力は不可欠です。自分の決めた道に進みたいのであれば、最大限の努力をしましょう。3年生からは踏ん張り時です。頑張ってください。